

親子読書『つなぐ～熊本の明日へ～』の感想より (R1年9月6日実施)

【1年】「くばられた あたたかい ころ」

《児童》 ゆずってあげたひとは、やさしいなとおもいました。

《お家の方》 地震などは、いつ起きるか分からないけれど、周りのことを思いやる気持ちや優しい心を、子どもも大事にしてくれたらいいなと思います。

【2年】「ありがとうをつなぐ おりづる」

《児童》 ぼくも、ありがとうのおかえしを、これからも自分でみつけてがんばっていきます。

《お家の方》 みんなができることをして周りの人を助けて、助けられた人がありがとうの気持ちでまた助ける、をつなげていけたらいいですね。

【3年】「今 わたしに できること」

《児童》 かわいそうだなあ、と思いました。でも、スタッフの人が「だいじょうぶ？」とか、ふわふわことばを言っていたところがいいと思いました。

《お家の方》 みんな困っているときは、支え合って助けていくことが大事です。みんなで辛いことを乗り越えたからこそ、小さな幸せにも気がつけるよね。

【4年】「牛の命をつなぐ お父さん」

《児童》 わたしは、いとこのお家で牛を見たことはあります。でも、ふつうに見ていました。だけど、このお話を聞いて、牛も大切な命をもっているんだなあと思いました。

《お家の方》 人間の命と動物の命は大切な命だと思います。私たちは、動物からたくさんの命をつないでもらっていると思います。今後も大切な命をつないでいきたいと思います。

【5年】「救える命をふやしたい」

《児童》 ぼくは、熊本地震で大きな被災は受けていないけど、たくさんの命が奪われたことは、ぼくも心が痛みました。ぼくは、最後に書いてあった「自分の命を守り、大切な人たちの命を守れる大人になってほしい。」が心に残りました。

《お家の方》 私自身も阪神淡路大震災の揺れを体験しました。たくさんの大切な人、街が一瞬で奪われてしまう悲しみを受け止められず、日々を過ごしていました。生かされた命を大切に繋げていけたらと思っています。

【6年】「私に できること」

《児童》 ぼくは、困っている人がいてもあまり助けたことがなかったので、この人はすごいと思いました。そして、被害にあった人たちのところに物資を届けに行ったというところが、とても優しいと思いました。

《お家の方》 ただでさえ、周りの状況を考えるのが難しい中、少なからず自分も被害にあいながらも、より被害にあわれた方のために行動できるところがすごいと思います。このような方のおかげで、復興が進んでいくんだと思いました。

【たんぽぽ・ひまわり学級】「こわいおもいのなかで」

《児童》 じぶんもおなかがすいているのに、ゆずれるってすごいなあ。

《お家の方》 不安なシチュエーションの中、人にゆずれる心を持てるような人間になりたいです。